

立正大学学園150周年記念事業  
国際交流センター主催

第4回  
英語スピーチコンテスト  
RISSHO VOICES

2023.12.2 Sat.  
13:00~16:00 (予定)

立正大学 熊谷キャンパス  
アカデミックキューブ1階  
A101教室

## 国際交流センター長からのご挨拶

On behalf of Rissho University, I would like to extend a warm welcome to all gathered here today. Your support is deeply appreciated. This year, not only are we are delighted to present the 4th Rissho Voices Speech Contest but we are also particularly pleased to be holding this event at the Rissho University Kumagaya Campus for the first time. In addition, we are pleased to take this opportunity to strengthen our long-standing bonds with Kumagaya International Friendship Association, which has a history of actively promoting international exchange.

I would like to extend my gratitude to all those who have lent their support in making this event a success. Special thanks go to our esteemed judges, the university staff, and the professors who generously took the time to help our contestants prepare for this day. And of course, it wouldn't be a contest without our entrants, so I would like to thank every student who took on the challenge of entering this contest.

Finally, I urge all Rissho University students to draw inspiration from what you hear today. Take yourself out of your comfort zone. Believe in your potential. You can achieve more than you ever imagined.

Now, let's sit back and listen to the voices of Rissho Senior High School and Rissho University.

Director, Center for International Exchange



Gary Dendo

立正大学を代表して、本日お集まりいただきました皆様を心から歓迎いたします。皆様のご支援に深く感謝申し上げます。おかげさまで今年も立正大学英語スピーチコンテストRissho Voicesを開催できることを嬉しく思っておりますが、今回の第4回立正大学英語スピーチコンテストを初めてこの立正大学熊谷キャンパスで開催できることとなり、喜びもひとしおです。また、この機会に国際交流を長年に亘り積極的に推進してこられた熊谷市国際交流協会との深い絆を更に深めることができることも、大変嬉しく思います。

このイベントの成功のために力を貸してくださったすべての方々に感謝の意を表したいと思えます。また、尊敬する審査員の皆様、大学スタッフ、そしてこの日のために出場者の準備に時間を割いてくださった先生方に特に感謝申し上げます。そして、もちろん、出場者なくしてコンテストは成り立ちませんから、このコンテストに挑戦してくれたすべての学生に感謝したいと思えます。

最後に、立正大学の学生の皆さんは、今日聞いた話からは是非インスピレーションを得てください。自分のコンフォートゾーンから飛び出してください。自分の可能性を信じてください。今までに想像したこともないようなことを成し遂げる力があなたにはあるのです。

それでは、立正大学附属立正高等学校と立正大学の学生の声に耳を傾けましょう。

国際交流センター長  
デンドウ・ゲーリー

## スケジュール

時刻	内容
13:00	開会式
13:15	発表
13:45	途中休憩
14:00	発表
14:40	途中休憩
15:20	表彰式・閉会式
16:00	スピーチコンテスト終了

## 賞 一 覧

1位～3位	大学の部より各1名
熊谷市国際交流協会特別賞	大学の部より1名
奨励賞	大学の部より5名
敢闘賞	高校の部より1名

## テーマ一覧

今年度は、学生が下記より関心のあるテーマを1つ選んで、スピーチを行います。

1	The Impact of AI on Society 社会におけるAIの影響
2	Our Responsibility as Moralists モラリストとしての責任
3	Living in the Information Age 情報化社会に生きる
4	Tolerance and Our Modern World 現代社会における寛容性
5	For Revitalization of Local Areas 地方活性化のために

1	<h2>Unseen Bones of Our Lives</h2>
	Graduate School of Social Welfare Keiichiro KIMURA (木村 圭一郎)
	<b>【選択テーマ】</b> For Revitalization of Local Areas
	<b>【スピーチ概要】</b> 過疎化が進む地方をいかに活性化するか。これは現代日本が対面している社会問題のひとつです。しかし、それを「自分事」として捉えている人がどれだけいるのでしょうか？ 食材やエネルギーなど私たちの生活を支える基盤の多くが地方頼みであることを踏まえ、都市圏と地方が役割分担する双方向性の地域活性化を考えていきます。
	<b>【学生からのメッセージ】</b> 私たちの身体を形成するどの骨が折れても、日常生活には支障が出ます。それと同じことが日本社会における「地方」にも言えます。普段は気づきづらいが、ないと困るその有難みを再認識していただければと思います。

2	<h2>Is Tottori Already Dead?</h2>
	Faculty of Psychology Hyuma KURAMITSU (倉光 飛雄馬)
	<b>【選択テーマ】</b> For Revitalization of Local Areas
	<b>【スピーチ概要】</b> 鳥取県は日本一人口が少ない県として知られています。また、人口も年々減少しており、過疎化が進んでいます。鳥取県で生まれ育った私としては自分の生まれ育った町が無くなっていくことはとても悲しいことです。鳥取県のような過疎化が進んでいる地域で、人口減少から復活し、活性化することは可能か考えます。
	<b>【学生からのメッセージ】</b> 私は2年前までbe動詞も理解できず、英語を嫌いという理由で勉強することを避けてきました。ですが英語のもつ可能性に気づき、勉強を続けこの場に立つことも可能になりました。今日は精一杯頑張ろうと思います。

## The Distance of Us in the Information Age

Graduate School of Business  
Administration

CHE Feier (チャ フィル)

【選択テーマ】 Living in the Information Age

### 【スピーチ概要】

3  
今の生活は昔より便利になってきたのは現実だ。様々なニュースが獲得できるし、誰と連絡しようとしてもすぐにメッセージで返答することができる。しかし、そんなに便利な社会の中で、人々との距離感が遠くなってしまった。例えば、他人と一緒にいる時にずっと携帯を見ていた。考えてみれば、これは本当にいい世界なのか。

### 【学生からのメッセージ】

私たちの生活が前より便利になっている。人との交流は手紙からインターネットに変わった。そのような便利な生活は、人々の距離を縮めるはずだったが、昔の生活に比べると、徐々に人々の心から遠ざかりつつある。

## The Future is in the Hands of Local Regions

Faculty of Business  
Administration

Ryuichiro UOMI (魚見 隆一郎)

【選択テーマ】 For Revitalization of Local Areas

### 【スピーチ概要】

4  
1999年の地方分権一括法制定以降、規制緩和により、地方自治体がこれまで以上に主導権をもってやれることが増えてきた。そのため現代の日本において地方の活性化には、地方公共団体、住民が、双方向性で連携をとることに加え、現代の強力なツールであるインターネットを最大限に用いることが重要なのである。

### 【学生からのメッセージ】

二十一世紀以降に急速に地方分権が進んでいます。人によっては、国政の放棄と揶揄する人もいますが、私にとってのビッグチャンスと捉えていて、それについてこれから述べたいと思います。

## How to Change the Future of Rural Areas

Faculty of Buddhist  
Studies

Nami ASAKAWA (浅川 奈美)

【選択テーマ】 For Revitalization of Local Areas

### 【スピーチ概要】

近年、日本では都市部に多くの人々が密集し賑わう反面、田舎の地域では深刻な人口減少や高齢化による施設の規模縮小や老朽化などのいわゆる「過疎化」が見受けられます。どうしたらそれらの問題を少しでもいい方向に持っていく事ができるでしょうか？ユニークな解決策をシェアします。

### 【学生からのメッセージ】

過疎地域出身だからこそ感じる問題点を、Z世代らしい方法で少しでも解決できたらなと思っています。このコンテストに参加する事自体がその一歩なので、楽しく聞いてくだされば幸いです。

5

## The Internet is a Reflection of Ourselves

Faculty of Letters

Mikoto KATO (加藤 海呼都)

【選択テーマ】 Our Responsibility as Moralists

### 【スピーチ概要】

情報化社会と言われ始めて、もう随分と経ちました。SNS上での事件は黎明期よりは少なくなりましたが、実際SNSの使い方は「良い」と言えるでしょうか。今も芸能人への炎上やSNS依存など問題が起きていますが、そのほとんどが「沈黙」によって片付けられています。SNSに向き合う最善策は、本当に「沈黙」を貫くことなのでしょうか。

### 【学生からのメッセージ】

もはやSNSはほとんどの人にとって馴染み深いものとなりました。SNSをどう使うかは私たち次第です。未だ問題点を抱えるSNSを通して、私たちの現実での行動や言動を見つめ直すきっかけになれば幸いです。

6



## Information as a Branch, a Tree or a Forest: Which Angle are You Taking?

Faculty of Data Science Yoshinori KUNITO (國藤 慎典)

【選択テーマ】 Living in the Information Age

### 【スピーチ概要】

皆さんは、メディアやネットからの情報をどれほど信じているでしょうか。人によって様々だと思います。

しかし、みなさんが受け取る"情報"というものはその全体の一部という場合が大半です。

情報が飛び交う現在、重要な詳細が見落とされることがあります。そのため、情報は背景に注目することが大切なのです。

### 【学生からのメッセージ】

今の時代、情報を得ることが簡単です。しかし、皆さんは情報を理解する能力を持っていますか。受け取り方では違う意味になることもあります。そのため、皆さんにはこの能力を持つ必要性を知っていただきたいです。

7

## An Abandoned Cigarette Opened the Door to Morality

Faculty of Letters Sora NAKAMOTO (中本 空良)

【選択テーマ】 Our Responsibility as Moralists

### 【スピーチ概要】

プラスチックが地球を蝕む要因は3つあります。原料である石油の消費、燃した時に出るガス、そして海洋汚染です。タバコのポイ捨てとプラスチックが関係あるのか、と疑問に思われるかもしれませんが。実はタバコの吸殻は立派なプラスチックゴミなのです。本スピーチでは「ポイ捨て」から、モラリストへの入口を提示します。

### 【学生からのメッセージ】

僕はタバコが好きです。この台詞を見たあなたは多くの場合、良い印象を抱かないでしょう。これは些細なことだと思われませんか？このトピックを入口として、根深いモラルの構造を覗き見、そして実践しましょう。

8

### **Animals in Our Modern World**

Rissho Senior High School      Akihiro OGAWA (小川 暁大)

9

#### **【スピーチ概要】**

世界中で私たち人間は動物と共に生活しています。それぞれの国や地域、宗教によって動物に対する考え方が異なっています。では、それはどのように違うのでしょうか。ペット、働く動物、宗教の3つの視点から見ていきます。

#### **【学生からのメッセージ】**

英語でスピーチの発表をするのは初めてのことなのでとても緊張していますが、精一杯頑張ります。この発表を聞いて、世界の動物文化に少しでも興味を持って頂けたら嬉しいです。

## 審査員

### Matthew Dean OWNBY (マシュー・オンビー 氏)

日本在住18年目。大学にて電気工学と機械工学をダブル専攻し、卒業後は医療機器エンジニアとしてNASAに入社。来日後は複数の外資系企業でセミナー講師を務めた後に独立。現在はフリーランスの英語プレゼンや異文化、CS研修の講師として活躍しており、日本企業の従業員に必要なコミュニケーションスキルを指導している。

### Shigeru KOBAYASHI (小林 茂 氏)

2005年からToastmasters International会員。同全日本日本語スピーチコンテスト優勝2回(2012年, 2013年)。津田塾大学津田梅子記念交流館スピーチ&プレゼン講座講師5年(2013年-2017年)。現在、光電子融合デバイスメーカーにおいて技術開発、国際標準化および海外ビジネス対応などを担当。博士(工学)。

### Keiko NAKAMURA (中邑 啓子 氏)

明海大学外国語学部教授。主要研究テーマは、言語発達・第2言語習得(ナラティブ、談話能力、ジェンダー、敬語、など)、バイリンガリズム(コードスイッチング、アイデンティティ)。

### Yuka MATSUZAWA (松澤 由佳 氏)

トーストマスターズ日本が主催の英語ユーモアスピーチコンテスト全国大会ファイナリスト。全国大会を含め、各レベルのコンテストで日英の審査員経験あり。現在は、英語マニュアルの制作、翻訳、校正などを手掛ける。

### Kuniyoshi MATSUMOTO (松本 邦義 氏)

熊谷市国際交流協会会長。熊谷市国際交流協会は、世界の人々との交流を通し友好の絆を強め市民の国際意識の高揚を図り、世界平和に寄与することを目的に1991(平成3)年に設立され、姉妹都市インバーカーギル(ニュージーランド)との交流や、外国人による日本語スピーチコンテストの開催、各種語学講座など、様々な国際交流活動を行っている。

